

## 失ったからこそその成長

岩手県花巻市立西南中学校

三年 町 中 芽 衣

私の母は、私が四歳の時に亡くなった。当時の私は、人が亡くなるということの意味が分からず、突然母がいなくなったことに疑問を抱くことしかできなかった。

それからは、父が忙しい時は祖母が毎日来て、清掃や洗濯、ご飯作りなど家の事をやってくれていた。姉や祖母は、まだ小さかった私を、母の代わりとして面倒を見てくれた。

そして五年後、私が小学三年生の時、当時中学一年生だった姉が突然亡くなった。信じられなかった。信じたくなかった。大好きな家族の二度目の死、そして毎日そばにいたことが当たり前だった存在を失い、とても辛く、悲しく、何度も何度も「死にたい」「お母さんとお姉ちゃんに会いたい」と思った。

この辛い出来事と闘い乗り越えることができたのは、親戚、学校の先生、友達など、たくさんの方の支えがあったからだと思う。特に祖母や父には本当に感謝している。祖母が家事を手伝ってくれていなかったら、父がたった一人悲しみに堪え、私たち家族のためにあんなにも一生懸命働いてくれていなかったら、こんなにも幸せな生活はできていなかったら。母と姉の死をきっかけに、いくら健康な

人でも、確実に明日があるとは限らない、事故や突然の死で命を落としてしまうかもしれないということを知った。だから私は、私たちの生活を支えてくれている人に「ありがとう」を伝えていこうと決めた。失った家族ともっと話したかった、もっと一緒にいたかった、もっと「ありがとう」を伝えなかった、そんな後悔をしないためにも、自分の心からの気持ちを伝えていこうと思った。

私には、中学一年生の時に新しい母ができた。また、私は小学二年生から始めたソフトボールを中学校でも続けた。たくさん怒られ、辛い思いをしながらソフトボールをした三年間を、父と母は全力で支えてくれた。朝早くから、私のお弁当を作ってくれたり、練習試合や大会のたびに応援に来てくれたり、遠征や試合で遠くに行く時は、練習や試合で使う道具を運んでくれたり。また、私は三年間で怪我もたくさんした。そのたびに、病院に連れて行ってくれた。その数々の支えに私はいつも必ず「ありがとう」を言っていた。学校や部活の送り迎えをしてもらう時の「お願いします」「ありがとうございました」、お弁当を作ってもらった時の「お弁当ありがとう」、この言葉がいつしか自然と口から出るようになっていた。私はこの時、自分の感謝、気持ちを伝えることの大切さを改めて知った。

私は今、これ以上の幸せはいらないと感じるくらい幸せな生活ができています。でもこれは、当たり前前の幸せではない。世界には、十分な食事が取れず、毎日お腹をすかせて生活している子ども、学校にも行けず家の手伝いをしてる子どもがたくさんいます。そんな子どもたちと比べて私は、毎日美味しいご飯が食べられているし、学校に行って勉強もできている。この幸せは当たり前のものでなく私たちが家族のために一生懸命働いてくれる父、毎日美味し

いご飯を作ってくれる母、その他にも私たちの生活を支えてくれるたくさんの方のおかげで成り立っている。

私が、自分の感謝、気持ちを伝えることの大切さ、今あるこの生活のありがたさに気づくことができたのはきつと、母と姉の死があったからだろう。大切な人の死は、私を大きく成長させてくれた。大事なことに気づかせてくれた母と姉に感謝し、辛い過去から学んだことを大切にして、これからの人生を生きていきたい。